

「Grand Line」 1 学年通信



岩手県立盛岡第三高等学校 1 学年

令和 7 年 4 月 2 1 日(月)発行 Vol. 3



三高マスコット「トナンくん」

🌸 鵬 63 回生のみなさん、偉大なる航路 Grand Line へ向けた航海が始まってから今日で 14 日
が経ちました。入学式、対面式、オリエンテーションといった年度始めの行事がほぼ終わり、先
週からは授業と部活動が始まっています。高い学力や部活動での活躍は基本的な生活習慣の確立
(起床時間・就寝時間・食事時間・家庭での学習時間と休憩時間等を毎日固定にする)に立脚しま
す。焦らず、ゆっくり着実に盛岡三高での新生活に慣れていきましょう。一流アスリートが最も
大切にすることは「ルーティーンを崩さないこと」だそうです。

元メジャーリーグ選手のイチローさんは、毎朝カレーライスを食べることをルーティーンとしていたそうですよ。1 学年通信
Vol.3 では入学式と対面式で行われた代表生徒による宣誓・あい
さつ全文を改めて紹介します。さらに、経営企画課の笹川美紀子
先生から今年度から始まる総合的な探究の時間「おおとりリサー
チプログラム (ORP)」について説明していただきます。



新入生代表宣誓 2025 年 4 月 8 日 入学式 1 年 7 組 出口穂佳さん

長く厳しい冬が終わり、春らしい風を感じる季節となる中、私たち二百八十六名は、今日、岩手
県立盛岡第三高等学校の新入生として入学を迎えることができました。本日は、私たちのためにこ
のような素晴らしい入学式を挙げていただき、本当にありがとうございます。三年前、新型コロナ
ウイルス感染症により様々な行事の継承が難しい中で、私たちの中学校生活はスタートしまし
た。五類感染症への移行後は、仲間と協力し、工夫しながら新たな体制づくりに取り組むことで、
制約はありながらも充実した日々を過ごすことができました。そして今、新しい制服に袖を通し、
新しい仲間たちとこの時を迎えています。これからの高校生活に少しの不安はありますが、大きな
期待で胸がいっぱいです。私たち新入生は、中学校で学んだことを活かし、これまで高め切れな
かったこと、学業、部活動、地域活動に全力で取り組みます。時には意見の衝突があるかもしれま
せんが、仲間を大切に、認め合い、励まし合いながら高校生活を送ります。最後に、校長先生をは

じめとする先生方、保護者の皆様、地域の方々、先輩方、私たちを支えてくださるすべての方々へ
の感謝の気持ちを忘れずに、盛岡第三高等学校の生徒としての自覚を持ち、実り多い高校生活を送
ることをここに誓います。



新入生代表あいさつ 2025 年 4 月 9 日 対面式 1 年 1 組 渡辺天さん

本日は、私たち一年生のためにこのように盛大な式を開いていただき、本当にありがとうございます。
ここにいる二八六名は、昨日の入学式を終え、盛岡第三高校の生徒として新生活のスタート
を切りました。はじめての連続になるであろう、これからの高校生活に大きな不安もありますが、
それ以上にたくさんの夢や目標をもった仲間、先輩方に囲まれて過ごせることをとても嬉しく思い
ます。また、高校では中学校の時よりも、自らの判断で積極的に行動しなければならない場面が増
えていくことでしょう。「自分たちにそれが出来るのか」と思うこともありますが、今、多くの先
輩方や先生方を目の当たりにし、「この学校なら、理想の自分になれる」と確信しました。先輩方
にご指導いただきながら、自分の行動に責任を持ち、信頼される三高生になれるよう精一杯励んで
いきます。日々の生活から様々なことを学び、成長していけるよう頑張りますので、どうぞよろし
くお願いいたします。



三高生の総合的な探究の時間「おおとりリサーチプログラム」とは？

小学校から中学校までは「総合的な学習の時間」として取り組んできたものが、高校では「総合
的な探究の時間」に変わっている…。時間割には「ORP」と書かれている…。一体これはどのよう
な科目なのだろう？と気になっている人も多いことでしょう。そこで 4 月 15 日、清川頼宣先生に
よるガイダンスが実施されました。まず、盛岡三高における総合的な探究の時間「おおとりリサー
チプログラム」(通称 ORP) の中では、一体どのようなことに取り組んでいくのかについて説明。

ORPを通して身につけたい力は、3つあります。

- ① 社会に目を向け、身近な課題を発見する力、対話力
- ② 論理的思考力、多面的な見方・考え方
- ③ 自らの進路と関連づけた知的探究心、論理的表現力

これらを身につけるために、1年次では「探究活動の基礎作り」をしていきます。ガイダンスでは、「探究とは、身の周りにある些細な課題や、ふと気になる疑問、好きなことをトコトン追究することである」という話がされました。難しそう…と思った人もいるかもしれませんが、自分が追究したいことが世の中の役に立つか立たないかは関係ないし、大学で研究するような本気の研究でなくてもOK！まずは自分の好きなことに目を向けることが、探究の第一歩です。そのために自分自身に目を向けて、自分は何が好きなのかを考える必要がありますね。実際に清川先生も、ご自身の研究のテーマの発端はゲームだったというお話をされていました。

ただORPは好きなことだけやる授業ではありません。そんなことでは、ORPの時間は各自がゲームをしたり音楽を聴いたり、昼寝をしたり、笹川の場合は水族館巡りの時間になってしまいます。

大事なのは、自分の好きなことを糸口に、「なぜ○○なんだ？」「どうやったら○○になるんだ？」と、身の周りにあることや起こっていることをより良くしていこうとする姿勢です。

清川先生によるガイダンスのあとは、3年生の田畑舞桜さんと鈴木悠真さんが、探究活動に大事な姿勢を対話形式で教えてくれました。鈴木さんの悩み：『彼女と別れるために、どう手紙を書いたら良いか』という問いを投げかけられたときは、会場全体がざわめきましたが、あれは大学入試の応用バージョンだったそうですね。答えのない問いに対し最適解を導き出すには、多面的に物事を捉えなければなりません。そのためには、さまざまな経験を積む必要がありますし、普段からものの見方を鍛える必要があります。実際に、3年生の2人が取り組んでいる探究活動についても紹介がありました。田畑さんは、「掃除が大変そうなお母さんの負担を軽くしたい」という思いから、理科で学習した内容を探究活動に応用していました。カビの発生に必要な栄養のうちタンパク質に着目して、その分解酵素を含むパイナップルを活用してみようという発想は、すごいですよね！鈴木さんは、「自分が好きな社会科の授業のおもしろさを、他の人にも伝えたい」という思いを持ち、自分で授業を計画して実施。先生や友達にも協力してもらい、授業の結果をアンケートにまとめるなど、多くの人と関わって活動を進めていました。2人とも日常の中から課題を見つけ、多面的に物事を捉え、より良くしようと取り組んでいます。

みなさんも、身近な疑問や気づきから問いを立て、3年間のORPに取り組んでいきます。前期中間までのORPでは、問いを立てるためにそれぞれの教科の知識をどう活かすことができるかについて、5教科の先生方が教えてください！得意教科・不得意教科はそれぞれあると思いま

すが、苦手な科目が意外なところで、自分の好きなこととつながる場合もあります。ぜひこの機会を使って、ものの見方・考え方を広げましょう。また、5月には避難訓練・復興教育もORPのプログラムに組み込まれています。小・中学校でも避難訓練は体験してきたと思いますが、探究活動の一環としての避難訓練は、安全や防災についての課題発見や解決につながるような取り組みにしていきたいですね。緑丘ゼミという講演会もあります。外部講師による、進路に関わるお話を聞くことができます。まだ高校に入学したばかりですが、この講演会は進路意識を向上させるためのいい機会になると思います。

前述したORPを通して身につけたい3つの力を再掲しますね。①社会に目を向け、身近な課題を発見する力、対話力／②論理的思考力、多面的な見方・考え方／③自らの進路と関連づけた知的探究心、論理的表現力。これらを高めるためさまざまなコンテンツが用意されています。作業をしたり、話を聞いたり、実際に現地に赴いたりしながら、「考える→意見を交換する→理解を深める」のサイクルを中心に、考えて、考えて、考えてもらいます。周囲と協働し、楽しくORPに取り組んでいきましょう。以上、経営企画課・笹川美紀子がお送りしました。

盛岡三高の校訓

随处為主 (ずいしよいしゆ)

付和雷同せず、主体性を持って生きなさいという「臨済録」の教えで、三高生のあるべき姿の基本を示しています。



鴻鵠の志 (こうこくのこころざし)

羽ばたく鵬が持つ「遠大な大志」という意味で、向上一路の精神で理想を追い求め続ける気高い志のこと。

